

「今後の水道事業経営」に関する
神戸市上下水道事業審議会での審議状況
及び今後の審議内容

R4. 12. 27 第100回 神戸市上下水道事業審議会にて諮問

「今後の水道事業経営」について諮問し、**専門部会**を設置して審議することを決定

R5. 2. 16 第1回 水道事業経営の現状

R5. 3. 30 第2回 更新需要増大に関する投資のあり方

R5. 5. 29 第3回 企業債の発行基準など資金確保の手法等




R5. 7. 31 第101回 神戸市上下水道事業審議会にて専門部会の審議状況を報告


R5. 2. 16 第1回 水道事業経営の現状 神戸水道の特徴・経営状況及び今後の議論の方向性を審議

- ・神戸水道の特徴（水源の3/4を琵琶湖・淀川に依存、施設数が多い等）
- ・経営状況（これまでの経営改善、給水収益の減少、将来収支見通し等）

R5. 3. 30 第2回 更新需要増大に関する投資のあり方 今後40年間の更新投資のあり方を審議

- ・配水管更新のペースアップ（40km/年→50km相当/年）
 - ・基幹施設や事故時に影響の大きい管路について優先的に更新
 - ・統廃合やダウンサイジングなど更新の工夫の取組の継続
 - ・1年当たりの投資額が約226億円
- 
- ・ダウンサイジングなど更新の工夫をしておき、これ以上の投資額の削減は困難であると考えられる
 - ・投資財源の確保が課題となった

R5. 5. 29 第3回 企業債の発行基準など資金確保の手法等 資金確保手法として企業債の発行を審議

- ・企業債の発行基準
（資金150億円を下回らない範囲、充当率）
 - ・企業債発行の管理目標
（経営指標、管理基準など）
- 
- ・世代間負担の公平性の観点から、企業債発行に異論はなかった
 - ・企業債の発行基準については決めることができなかった
 - ・委員から料金水準についても議論すべきという意見が出た

委員からの主な意見

- ・ 水道事業の持続可能性を考えると、**料金水準や料金体系について検討すべき**
- ・ 借入を少なくすれば大きく料金を上げる必要があり、借入を多くすれば料金の上げ幅を抑えられるがいずれ破綻するため、**どういうバランスが良いかという議論**が今後必要
- ・ いずれの財源にしても最終的には市民のコストであるため、負担が生じる可能性があることについて、**早めに広く市民に知ってもらう努力が必要**ではないか

今後の専門部会において

①**企業債と料金水準のバランス**

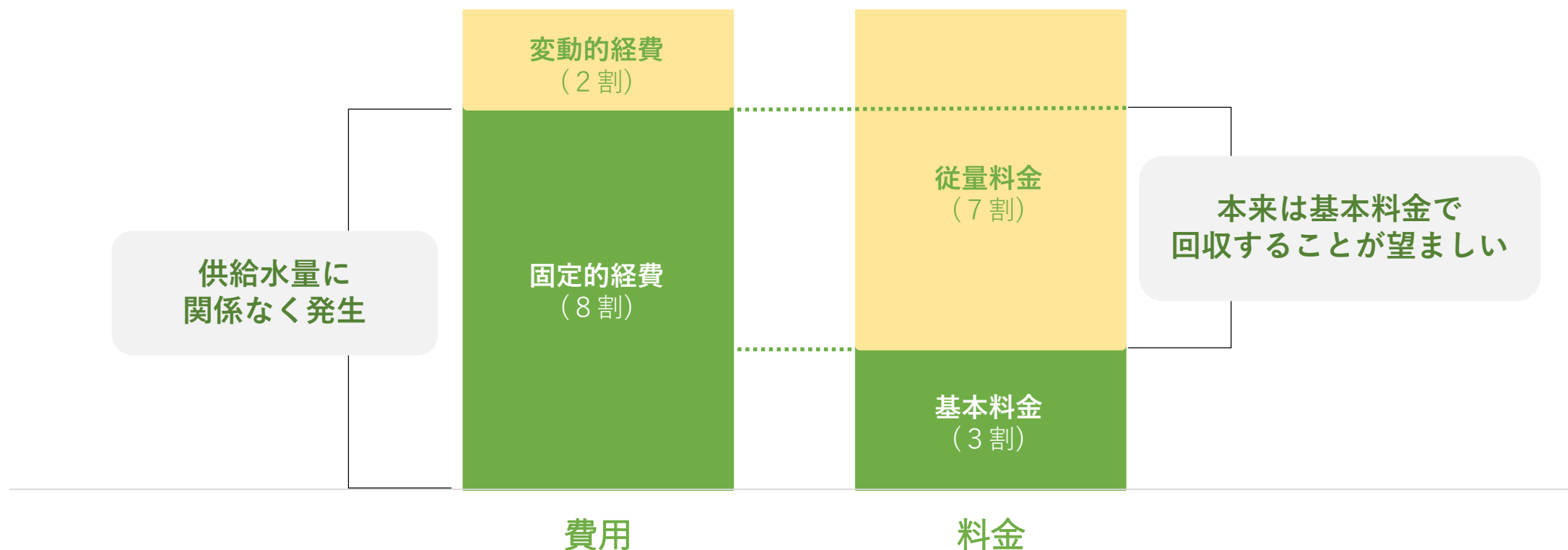
②**料金体系の検討**

③**広報のあり方** を含めて審議を行うこととなった

- R5. 2. 16 第1回 水道事業経営の現状について・今後の議論の進め方
- R5. 3. 30 第2回 更新需要増大に関する投資のあり方
- R5. 5. 29 第3回 企業債の発行基準など資金確保の手法等
- R5. 7. 31 専門部会での審議状況報告 ※第101回審議会にて
- R5. 9 第4回 企業債と料金水準のバランス・料金体系の課題（仮）
- R5. 10 第5回 料金体系（仮）
- R5. 11～12 第6回 答申（案）
- R5. 12 答申案報告 ※第102回審議会にて

- 水道料金は**基本料金**と**従量料金**で構成されています。
 - 〔基本料金〕 使用水量に関係なく、定額でいただく料金のこと
 - 〔従量料金〕 使用水量に応じて決まる料金のこと
- 本来、**固定的経費は基本料金**、**変動的経費を従量料金**で回収することが理想的な料金構造です。

費用の構成と料金収入の構成の関係



【基本水量制】

- ・ 口径13mm・20mmの利用者は、**基本料金のみで月10m³まで使用**できます。

【逦増制】

- ・ 使用水量が多いほど従量料金の単価が高くなる制度です。

